

理科における指導の重点(身に付けさせたい力)	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解する力	観察・実験の事象や結果を分析して解釈し、表現する力

学年	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>物質分野において、グラフから読み取ったり、グラフの作成をしたりすることに難しさを感じる生徒が多かった。ア</li> <li>観察や実験における学習課題に沿った考察や分析が苦手な生徒が多かった。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球分野、地震の小单元におけるグラフの読み取りや、エネルギー分野、光の道すじの小单元における作図について、グラフから必要な情報を読み取ることや、線が通る箇所を随時確認する。ア</li> <li>学習の流れを毎時間提示し、解決したい課題を視覚に残すなど明確にする。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月～2月</li> <li>毎单元</li> </ul>	
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算問題や圧力を求める問題などに課題を感じている生徒が多く、理解が十分とは言えない。ア</li> <li>結果を整理したものをもとに考察することが苦手な生徒が一定数いる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>公式を用いて、圧力の計算などがどうなるかを考えさせて書かせることや、計算問題を繰り返し行うなど、演習を充実させる。ア</li> <li>授業の度に振り返りを行い、実験の結果をグループで話し合わせ、考察する力をつける。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月～2月</li> <li>毎時間</li> </ul>	
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な事物・現象や基本的な概念、原理・法則を理解する力はある。しかし、学習したことを活用したり、応用したりする力に課題が見られる。ア</li> <li>実験の結果から考察し、文章で表現する力に課題が見られる。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎・基本や法則を用いて理解を定着させ、演習を充実させ、応用力を身に付ける。ア</li> <li>実験や観察の結果から、学習課題に沿って分析させたり、考察させたりする習慣を付け、文章で表現する力を養う。イ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎单元</li> <li>毎单元</li> </ul>	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
<p>1年→既習事項や生徒の考えを用いた話し合い活動を積極的に取り入れながら、タブレット端末で生徒にあった課題を選択できるような工夫をする。</p> <p>2年→実験の際にタブレット端末で撮影し、結果を共有しながら話し合い、班で考察を行う。各班の結果をタブレット端末で共有し、理解を深める。</p> <p>3年→観察や実験について、生徒が予想したことや考察したことを、タブレット端末を用いてクラス全体で共有し、観察や実験に対する振り返りを個々で行う。</p>	<p>1年→学習課題を毎時間確認して、学習課題ごとに振り返りをする。振り返りをする際には、実験計画や、考えたこと、生徒の到達度や学習に取り組む姿勢等の振り返りをさせる。</p> <p>2年→毎時間、授業の流れやめあてを明確にして見通しをもたせ、小单元ごとに問題演習、話し合いを行う。</p> <p>3年→単元の学習前に単元全体の学習の流れの見通しをもち、学習後に振り返りを実施する。今後の学習や、身近な生活に活かすための工夫を生徒に考えさせる。</p>

